

## 資料①

### うつ病について

以下の症状がほとんど1日中、ほとんど毎日2週間

以下の2つの症状のうち、少なくとも1つ

1. 気分の落ち込み
2. 何にも興味がなく喜びも感じない

さらに以下の症状と合わせて5つ以上

3. 食欲がない（ありすぎる）、体重が著しく低下（増加）
4. 眠れない、寝すぎる
5. 動作が鈍い、イライラ、落ち着きがない
6. 疲れやすい、何もする気になれない
7. 自分には価値がないと考える、自分を責めてばかりいる
8. 考えがまとまらない、決断ができない
9. 死ぬことばかりを考える、死ぬ計画を立てる

### うつ症状を引き起こしやすい病気や薬剤

脳卒中

甲状腺機能低下症

パーキンソン病

アルコール

カフェイン

降圧剤

ステロイド

高齢者のうつの特徴

### うつ病を併発しやすい病気

心疾患、脳血管疾患、悪性腫瘍、アルツハイマー、糖尿病

### 高齢者のうつの特徴

- ・死別や退職など環境の変化や健康問題や家族、経済的問題など慢性的なストレスがきっかけとなりやすい
- ・気分の落ち込みが目立たないことがある
- ・「大変な病気にかかっているのでは」など心気症的な訴えがあることも
- ・うつ症状よりも不安症状が全面にでることもある
- ・認知症の区別が難しいこともある、うつ症状が認知症の前駆症状であることも

### うつ病の治療

- ・薬物療法
- ・精神療法

## うつ病への対応

- ・できるだけ通常の対応
- ・話をよく聞いてアドバイスには気を付ける
- ・ゆっくり休んでもらう
- ・重大な決断を先延ばし
- ・お酒や科学的な根拠のない民間療法を勧めない
- ・精神科受診を勧める（薬や精神科への理解）

## 精神科の職種の主な役割

医師→薬物療法、診断、各専門職への指示、意見書など作成

臨床心理士・公認心理師→カウンセリング、心理検査、集団精神療法

精神保健福祉士→社会資源の相談、社会復帰の相談、受診や入退院の相談と支援

## 精神科受診で困ったとき

- ・本人・家族に精神科への不安を取り除くよう説明
- ・医師の家族相談を受け入れ可能な機関もある（自費）
- ・精神保健福祉士に相談（無料）
  - 受診、デイケア、入院など社会資源の相談
  - 「相談員」「医療相談室」など
- ・受診は家族も一緒にいくことをすすめる

## 精神科の入院の代表的な形式

- ・任意入院

本人が入院に同意

- ・措置入院

自傷他害の恐れがある場合、2人以上の指定医の診察、都道府県知事の権限で入院

- ・医療保護入院

本人の同意が得られない場合、指定医の診察、保護者の同意で入院